



平成26年11月27日

各位

会社名 東京製綱株式会社
代表者 取締役社長 中村 裕明
(コード番号 5981 東証第1部)
問合せ先 常務取締役執行役員総務部長 佐藤和規
(TEL. 03-6366-7777)

蒲郡CFCC工場のフル生産開始と能力増強について

当社は、この度、炭素繊維複合材ケーブル（Carbon Fiber Composite Cable、以下「CFCC」）の製造工場（愛知県蒲郡市）の能力増強を決定いたしました。

CFCC®は、当社が、長きにわたって研究開発を続けてきた製品であり、炭素繊維を撚り合わせてロープ状にしたケーブルです。炭素繊維の有する「軽量、高耐食性、非磁性」等の素材特性を活かし、これまでも橋梁などコンクリート構造物の補強材やグラウンドアンカーの緊張材として、国内各地や北米をはじめとした海外で使用実績を積み重ねてまいりましたが、今般、量産化を可能にする技術的改善と需要増加の見通しが立ったため、蒲郡工場においてフル生産を開始するとともに能力の増強を行うことを決定いたしました。

CFCCの活用分野および需要は、先進国・新興国双方において、今後も拡大・増加するものと見込まれます。今回の設備増強は、主にインドネシアにおける送電線網拡充の動きを受けて実行されるものですが、世界で当社のみが有する画期的製品「CFCC」の普及・発展に向けた大きなワンステップということができます。

記

1. 製品概要

- (1) 製品名：Carbon Fiber Composite Cable（カーボン ファイバー コンポジット ケーブル）
- (2) 特 性：炭素繊維の素材特性を活かし、超高強度、高耐食性、高弾性、軽量、非磁性、低線膨張など従来のケーブルの常識を越えた特長を発揮します（鋼材に比べ、比重は約5分の1、線膨張係数は約20分の1です）。
また、撚り線状であることからコイル巻きができ、長尺ケーブルへの対応も可能です。
電線の芯材として用いた場合、たわみが小さい分、送電容量を通常の送電線（鋼芯アルミ撚り線、ACSR）の2倍まで増やすことができるほか、軽量であるため鉄塔に用いる鋼材量を少なくできるなど架設時のトータルコスト低減に寄与します。
- (3) 実 績：国内各地やアメリカ・ミシガン州の橋梁でコンクリート補強材として用いられた他、グラウンドアンカーや電線芯補強材として多くの使用実績があります。

2. 設備増強の概要

- (1) 工場 : 東京製綱蒲郡 CFCC 工場(愛知県蒲郡市)
- (2) 生産能力 : 現在 81 km/月 → 増強後 130 km/月
- (3) 稼働時期 : 2015 年 7 月末にフル稼働 (予定)

3. 設備増強の背景

インドネシアは、毎年 4 百万人以上の人口増加が続き、経済成長も継続する見通しであり、これに伴う電力需要の増加への対応が喫緊の課題となっています。14,000 以上の島で構成される島嶼国であるという事情から、送電ネットワークの整備が遅れてきた面もありましたが、先般「国家電力総合計画」を策定し、課題克服に向けて国を挙げて取り組んでいます。2011 年からの 10 年間で必要となる送電線は、累計で 6 万 km 近くに及ぶとの試算もあり、CFCC の有力な市場として期待されます。

今般、インドネシア電力公社に電線を供給する、同国内のケーブルメーカーより電線芯材用として CFCC の安定的供給を要請されたことを受け、市場環境も踏まえ設備の増強を決定致しました。

また、ローレンス工科大学 (アメリカ・ミシガン州) との共同研究を進め、アメリカ各州の運輸局へのアプローチを地道に継続し、着実に実績を重ねた結果、北米地域での展開に一定の見通しが立ったことも、今般の増強を決定する要因の一つです。

4. 今後の展開

中国国家電網会社が大規模な送電網の建設計画を発表するなど、新興国における電力インフラ整備は、インドネシアのみならず、周辺諸国でも今後加速的に進むものと見込まれます。また、アメリカにおいては、同国内に点在する老朽化した橋梁の更新や、沿岸部の道路における塩害対策の需要もあり、当社の CFCC がその優位性を発揮する分野は、世界各地に存在しております。

当社は、今後も研究開発を継続するとともに、各地の需要動向を見極めながら、世界規模での積極的な営業活動を展開し、更なる設備増強や生産拠点の設立も視野に入れつつ、CFCC の普及に向けた事業を行ってまいります。



以上